

- 「良いマッチング」とは？
  - ① サーチ期間が短い (Sasaki et al. 2013)
  - ② 新たな職での定着率が高い (Kohara et al. 2013)
  - ③ 新たな職での賃金が高い
  
- 個人意思決定サーチ・モデル
  - 手厚い雇用保険給付 ⇒ 留保賃金 ↑
  - 手厚い雇用保険給付 ⇒ サーチ努力 ↓
  - 失業期間は長くなるが、質の高いマッチングが期待できる
  
  - 残り給付期間が短くなるにつれ、留保賃金 ↓
  - 残り給付期間が短くなるにつれ、サーチ努力 ↑
  - 就職する確率は高くなるが、質の低いマッチングになる



- データ:雇用保険業務統計と職業安定業務統計
  - 被保険者台帳の雇用保険被保険者番号と求職台帳ヘッダーの雇用保険被保険者番号を照合し、一致したものの抽出
  - 2005年8月に離職した被保険者を対象(約15万人)
  - 2006年7月まで追跡
- ① Sasaki et al. (2013)
  - マッチング関数の推計
  - ローカル労働市場(HW単位、都道府県単位)の影響
  - 雇用保険給付の影響(就職確率)
    - 自発90日 > 自発120日 > 自発150日
    - 自発90日 < 非自発
  - 失業期間が長引くと、就職確率が低下  
(negative duration dependence)

- ② Kohara et al. 2013

- 定着率に着目
- 失業期間 × 定着率 ⇒ マイナスの関係
- 給付期間残り59日目で初めて紹介件数が観察された求職者(そもそも、留保賃金が高く、サーチ努力を怠る人)に限ると、マイナスの関係が強くなる
- 残り59日目から急激に留保賃金が下がったと考えられる
- プラスの関係、または関係なしという研究結果もある

